

この視点は、時代順に説話が配列されている『靈異記』においても有効である。未来を読み解く『靈異記』の知の境位は、上巻から中巻、下巻へと進むにつれて、因果から表相へと進展しているのではないか。

津田氏の研究において、未来を読み解く知という問題は、意味化ゼロの地平を抱えつつ意味化していくという言語哲学の問題も抱えている。この点で、和歌を対象とする猪股ときわ氏の最近の研究（『歌の王と風流の宮―万葉の表現空間―』III歌という言語フィールド第一章―第四章 森話社、二〇〇〇・一〇）ともシンクロする。

猪股氏は、『万葉集』巻十六や大伴家持歌や「歌経標式」などに見られる和歌の言語観を、「和歌曼荼羅」・「言語フィールド」と呼ぶ。和歌の定型の中で、和語や漢語や仏教語など、異なる出自をもつ言葉どうしが並ぶことで、それぞれがもとの出自から離れた新種のものになっていく。そのプロセスの場が

小特集・古代文学研究の現状と展望

2001年の古代文学研究

九十年代の古代文学の研究シーンに登場した「現場論」なるものが、古代文学会の、それも夏季セミナーというきわめて限定された場所が発信源であったことは、たしかである。ましてや、その研究史的意義などは、いまだ未知数といわざるをえない。その意味では、「現場論」は、現在進行形の、一つのプロ

「言語フィールド」であり、変化していくときのアナロジの論理を「曼荼羅」と呼んでいる。

こうした八、九世紀に見られる言葉への知に注目することは、これからの『靈異記』研究においても重要である。例えば、『靈異記』の各説話の末尾では、いろいろなジャンルの仏典や外典の文句が引用され、説話がその引用された書物の例証話として位置付けられている。これなども「言語フィールド」の問題として考えられるだろう。また、仏教説話集たるうとして説話を書き、並べることが、言葉を紹介して縁起や因果に巻き込まれていくことである。そのとき「曼荼羅」というアナロジの論理の場が、『靈異記』のなかにも、和歌世界とはまた違った貌のもとに現れてくるのではないかと思われる。

以上、『日本靈異記』を史書や後期万葉・歌論など同時代の言説との関わりから見ること、仏教説話研究の枠を広げてみるという方向性を提起してみた。

斎藤 英喜

セスを、今も生きているといってもよい。

その過程における一つの成果、論文集『祭儀と言説』（森話社刊）の巻頭に置かれた津田博幸の熱く語る言葉を聞こう。

一九九〇年代の始め、「表現論」としての「発生論」の様

式論」の普遍性は、私たちに抑圧として感じられた。それらが、公理系を柱とした普遍的議論であるだけに、もはや論ずべきことは何もない、とも言えたのである。しかし、一方で、私たちの知の世界は無限相対化の波によって隅々まで洗われつくしていた。言い換えれば、何かを相対化する理論の批評的意味は急速に失われつつあった。

(「序・生成の「現場」へ))

だからこそ、われわれは、体系や普遍の新たな創出でもなく、またそれらにたいする相対化の批評でもなく、ともかく「現場」へと降り立つしかなかったのだ。その「現場」へと着地したとき、見えてきたのは、表現を生成させていく力、その現場を生きている「実践者」なる存在であった。いや、「実践者」という存在を見いだせたとき、われわれは初めて、表現が生み出されていく一回的な現場に降り立ちえた、といったほうがよい。それは実践者の側から見えてくる、八世紀なら「八世紀」という固有な歴史の記述でもあった。

「表現」から「実践」へ。そして、「実践」の渦中に作り出されるコトバの世界へ。そのとき、われわれの古代文学は、「記」「紀」「万葉集」といった大文字の作品にたいして、歴史書、宣

命、祝詞、儀式書、寺社縁起、仏典注釈書、氏文、日本紀講書、漢詩集、歌学書……、などへと拡大していった。そしてそれら多様な言説たちを「実践」の側から読み進めていった果てに、その言説空間のなかに「記」「紀」「万葉集」が「覚醒するテキスト」へと跳躍し、「知」の領域として屹立してくる地点を、あらためて見定めつつある。これが、二十世紀末に到りついた「現場論」の現状といえよう。

たしかに、「現場論」は、古代文学研究プロパー内部から発信された方法論、チームであった。けれども、まわりを見渡したとき、「現場論」が提起した問題は、古代文学研究といった一プロパーをこえた、この二十世紀末を生きてきた諸学の先端が、すべからく直面した問題とクロスしていくことに気付く。たとえば、民俗学、人類学、宗教学、歴史学のプロパーにおいて、それらを架橋するようにして、現場が、生成が、言説が、そして実践ということが浮上し、問われ始めている動向を、新世紀に向けた、諸学のあちこちから察知することができる。

ならばその先は――。「実践」の、さらにその奥に揺らぎたつてくる「靈性」^{スピリチュアリティ}の領域へと、次なる一步を進めよう。そう、スターチャイルドの覚醒してくる、あの宇宙へ。